

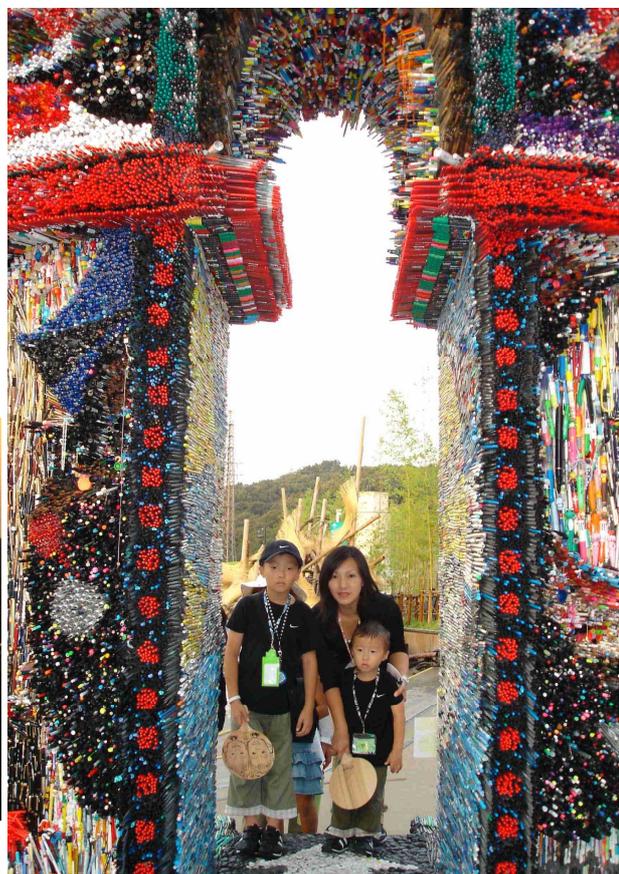
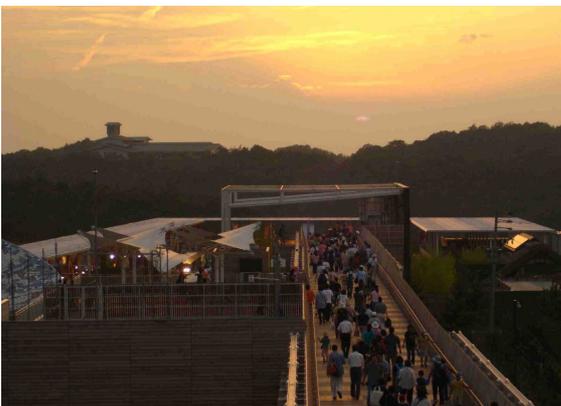


もう、とにかくすごい待ち時間で諦めかけていた日立館&トヨタ館ですが、思いがけず予約を入れることが出来てついに見てきました。

トヨタはラッパー兄ちゃんとロボットの楽器演奏コラボ&一人乗り電動車とダンサーのショー。日立は乗り物に乗って3Dスコープを見ながら動物達と触れ合うことが出来ます。どちらも大人気のパビリオンで開催初期から並ぶのが当然でしたが入場者数に比例してどんどん長蛇の列は伸び、最高では待ち時間8時間という日がありました。待ち時間2時間で「ばっかじゃねえの」と言っていたのですが後半は待ち時間5時間なんていうシャレになんない状況になると早くに見ておけば良かった！と後悔。。でもこんな企業館を観覧しちゃったことで「めざせ全館制覇！」モードに突入。



行くつもりがなかった瀬戸会場では、じんじんの父上の知人でもある台湾のアーティスト林世宝の作品や（これは全て使用済みのボールペンで出来てます）自然素材で作られた建物、オブジェなどが見れたし帰りにはとても綺麗な夕焼けが見れました。



夜にライトアップされた企業館もとっても綺麗だったけれどこいの池で毎晩開催されたショーもすごく綺麗でした。最初から最後までお話を通して見れることはなかったけれど池からいろいろな星や大きなサルが浮かび上がってくる様子は圧巻でした。ちょっとわかりにくいけれど、右の大きなものがサルの横顔で真ん中上に浮かんでいるのが地球です。そしてパビリオンだけでなく、突然ループでパレードが始まったり名物になってしまうような方々にも出会いました。



↑ 写真はピンバッジおじさん（300 個以上のピンバッジが！）

### それでは我が家の万博パビリオン

ベスト3を発表します。

とにかく人ごみが大キライで万博が混むたびにホントは行きたくないじんじんの

ベスト3は？

1位は不覚にも涙してしまった  
国際赤十字館！



## 2位 外壁も展示品も素晴らしかったエジプト館



## 3位 環境汚染へ警笛を鳴らすお芝居を上演した愛知県館

Cacco ちゃんが行きたい館ってことで、何度か観覧しようとした赤十字館は最初待ち時間 30 分程でした。次は 60 分、100 分とどんどん増えて覚悟を決めて並んだときは 150 分の待ち時間。並んでる間中「Cacco ちゃん、わざわざ新幹線乗って、わざわざ並んでこれ見るの？止めた方がいいってば」と言っていたじんじんがスクリーンの映像見て涙汲んでるし、筆無精なのにメッセージも書いてました。観覧後は

「こりゃ絶対見るべきだって！新幹線乗っておいでって、うちに泊まればいいって」と。。言ってること全然違うじゃん。(さすが酉年だ！) 番外編としてはアメリカ館のセグウェイ。(持ってかえりたいと言ってました) トヨタの一人乗り電動車(これも持ってかえりたいと言ってました) うさおさん同様にメカ好きのじんじんは他にもリモモやたくさんの近未来カーに顔をほころばせてました。

では次は長男のベスト 3 です。

## 1位は、3Dの動物達と触れ合える日立館！



Nature  
Contact  
日立グループ展

HITACHI  
Inspire the Next



愛地球博  
EXPO 2005 AICHI JAPAN  
2005. 3/25 ~ 9/25

2位は小さなジェットコースターに乗った  
ドイツ館

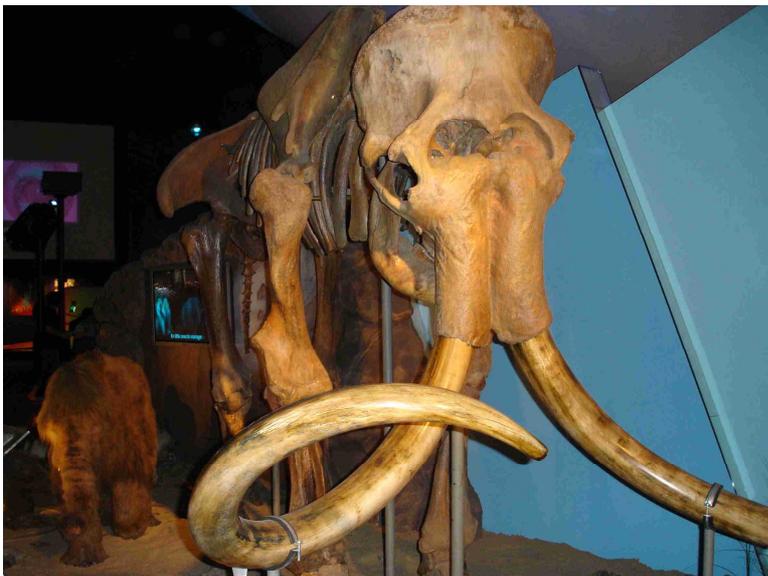
3位は涙をぐっところえた国際赤十字館  
感動していた赤十字館ですが、「すごく悲しく  
てつらい気持ちになる」から3位にしておくそ  
うです。。



楽しかったのはやっぱり体験型パビリオンですね。日立もドイツも4歳以下は乗車できないため、次男は参加できませんでした。次男は楽しんで泣いてと忙しかったです。一番泣いたのは、おそらくアルゼンチンのド派手な神様でしょう。

一番喜んだのはワンダーサーカス館かな。

それから、間近で見れたロシア館のマンモスやアフリカ館で見たボビー&アドゴニーも良かった！！だそうです。ちなみにボビー&アドゴニーは展示品ではありません。



自国のパビリオンエリアからご招待を受けて来場していたようです。。



さて、ではわたくしのベスト3を発表致します。

1位は、涙がぼろぼろこぼれた国際赤十字館。

2位は、球体のスクリーンの中をくぐり抜ける長久手日本館。



3位は、一番行ってみたい国メキシコ館。➡

展示品で良かったのは、インド館の仏陀やネパール館の仏像達、スリランカの仏殿などですが、番外編としてはチェコ館の古いピアノ（実は5月からピアノを習い始めたのです）や、⬇



スペイン館の外壁（可愛くって自宅の塀に再利用したいくらい）や、⬇



大地の塔の万華鏡です。



次の写真は結局 3 回もやってじんじんに呆れられたヘナタトゥ。イスラム圏で花嫁に施されるヘナという染料を使ったタトゥで 5 日ほどで薄くなり消えてしまいます。



おまけは恒例のまねまねシリーズです。



最近は何回もじんじんが呆れ果ててなかなかシャッターを押してくれません。私が懸命に忠実にポーズをとっても、無視されはじめています。シャッターをせがみながら『ちょっと～撮ってよ～』という『おまえ恥ずかしくねーの？俺恥ずかしいから他人のフリ』とすたすた歩いていくじんじんです(泣)



最初に万博が開催されると決まり、そのテーマが「自然の叡智」と聞いたじんじんは自然の叡智なら山を切り崩したり、木を伐採したり、海を埋め立てたりあたらしく道路をこさえたりはせずに、トレッキングでもやるべきだ、と言いました。

ただでさえ人ごみが嫌いなので、愛知の人口密度が高まるのが嫌だったのでしょう。そして、出たがりの私と息子にねだられ何度も会場に行くことになることを予想していたのでしょう。

初めて行ったときは、息子が行きたがった企業館が全てが待ち時間ありで「もう、帰ろうぜ」と言っていました。待たずに見れるアジアエリアにまず入り、タイの民族舞踏を見たりカンボジアのアンコールワットのミニチュア版を見たりするうちに「また行こうね」という息子に対し「おう、また行こうな」とお返事。(ぐふふ、しめしめ)



初めて並んで入った企業館は三菱の「もしも月がなかったら」。待ち時間に見れる小型のロボットや、大きなスクリーンでの映像にじんじんも「ま、万博も悪くないね」と。マンモスやネパール館、スリランカ館の仏像を見るうちに外国館なら全て観覧してみてもいいかもね、と言うように。

そして、本格的に並んで見たのは三井東芝館の180分待ち。(180分の待ち時間のおかげで私たちちょっと喧嘩になりました) 行列に並ぶとどうやら酸欠になるらしいじんじん、良く待ってくれました。

この三井東芝館といい、大人気の日立館やトヨタ館といい企業の先端技術のお披露目感が強い分、さすがにそれだけの見応えがあります。子供も大喜びだったし、とても面白かったのは事実なのですが私もじんじんもそれらをベスト3に選んではいません。

そんな企業のもくろみというものは全く違う次元で、国際赤十字館は多くの人の心を掴んだようでした。愛知のテレビのローカル局が万博の人気パビリオンのアンケートを集計した結果1位は国際赤十字館になったほどです。地球という星に住んでいる人間が、いかに様々な環境にいるのかを知らしめる映像と訴えるように唄う桜井くんの声の中で、多くの人が戦争や災害について、被害者と加害者について、思いを巡らせたのだと思います。戦争も災害もあつという間に、あつけなく、人の命を奪っていきます。でも誰しものが誰かにとって、かけがえのない存在であります。宗教的な戦争や紛争は、長い歴史を持つだけにその連鎖を断ち切ることは難しいでしょう。でも、恨みと憎しみだけを次の世代に繋いでいくことを、その犠牲者達は望んはないはずです。そして私たちはいつでも被害者にも加害者にもなりえます。

きっと、全てをのみこむ自然の力と上手につきあいながら、自分とは違う他人を受け入れて生きて行く知恵を、私たちは学ばなければならないのでしょう。

観覧後に涙を拭いながら、Caccoちゃんへのお土産を選んで外へ出るとさらに長い列が出来ていました。待ち時間3時間。それだけ待ってでも、この機会に触れようとする人がいると思うとまたちょっと泣きそうになった私でした。

これだけの大掛かりなパビリオンの建築といい、ひっきりなしに客を会場に運ぶバスやタクシーといい、これを環境汚染と言わずになんと言う?とじんじんは言います。私も満員のループ上で日傘は畳まないわ、列の順番は守らないわの人々、ほんとは健常者なのに車椅子に乗って優先的に観覧しようとする親子に 出くわし怒っちゃうぞ~となったこともありました。

でもそれもこれもひっくるめて、やはりとても楽しかった!

終わって、楽しかったね~だけで終わりにはならなかったこの万博は多くの人に「環境」や「共存」ということを考える機会をもたらせてくれました。万博、ありがとさんです。

